

第3章 街路樹・公園樹管理の基本的な考え方

本章では、前章までの街路樹・公園樹の現況や課題、上位計画等を踏まえ、本市の街路樹・公園樹のあり方、めざすべき街路樹・公園樹の将来像と目標を定めます。

3-1 街路樹・公園樹の維持管理の基本的な方向性

街路樹・公園樹の役割

街路樹・公園樹は、都市の景観・快適性向上や環境保全に貢献するなど、都市の価値を高め、市民生活を支える重要な都市インフラ

これまでの街路樹・公園樹の方向性

- ✓ もともと自然のみどりに恵まれず、市街化が進行しており、緑化の拡大余地が少ない環境。
- ✓ 本市では、1955（昭和30）年代以降、積極的に街路樹・公園樹を植栽し、緑の量の拡大を進めた結果、一定の緑のストックを形成。
- ✓ そのときどきの時代のニーズに応じた政策・施策により、緑の量的拡大だけでなく、質的向上も進めてきました。



一方で、人口減少や物価高騰、気候変動、市民ニーズの多様化等の社会情勢の変化などにより、街路樹・公園樹では、様々な課題が顕在化

街路樹・公園樹管理にかかる課題

街路樹・公園樹にかかる課題を3つの視点から整理すると以下のとおり。

- | | |
|-------------|--|
| 《樹木生育上の課題》 | 健全性の低下、環境への不適合、老木化の進行 |
| 《利用者から見た課題》 | 樹木を起因とした道路や公園の安全性の低下
強めの剪定などによる快適性の低下、景観の悪化 |
| 《管理者から見た課題》 | 限りある予算、品質維持・向上、
業務の効率化、樹木の価値・情報の発信 |



こうしたことから、本市におけるこれからの街路樹・公園樹の管理の方向性は、以下のようなことが求められます。

これからの街路樹・公園樹管理の方向性

- 都市インフラとして**健全な樹木の保全育成をめざす**
- 定期的な点検により蓄積したデータに基づきながら、計画的に適時適切な剪定を実施するなど、樹木管理のDXを強力に進めながら、**中長期的な視点で樹木の生育環境に応じた計画的な保全育成に取り組む**
- 市民・事業者等と情報共有しながら連携するなど、**樹木を共に育てるしくみづくり**に取り組む

3-2 街路樹・公園樹管理の目標及び基本的な考え方

(1) 街路樹・公園樹の維持管理目標

本市では、これからの街路樹・公園樹管理の方向性を踏まえ、維持管理目標を次のとおり設定します。

街路樹・公園樹の維持管理目標

市民生活を支える都市インフラとして**安全性を確保しつつ、樹木のもつ機能・効用を最大限に発揮**できるよう、**道路、公園などの植栽環境に応じた健全で活力ある樹木を保全育成**

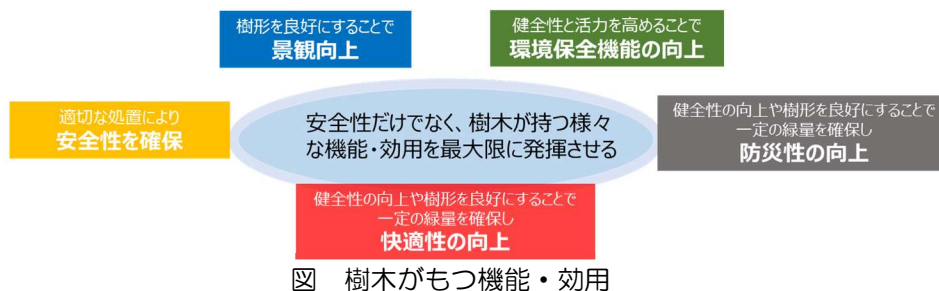


図 樹木がもつ機能・効用

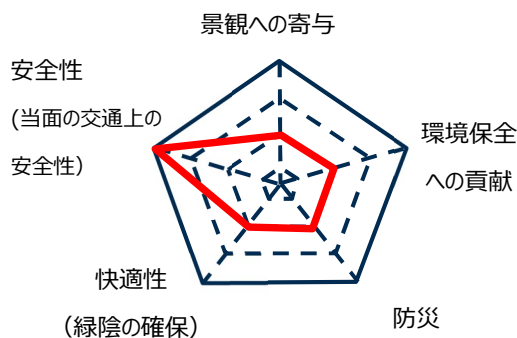
《解説①》「安全性を確保しつつ、樹木のもつ機能・効用を最大限に発揮」とは？

ここでは、「安全性を確保しつつ、樹木のもつ機能・効用を最大限に発揮」について、具体的にどのようなイメージかを写真や概念図で示します。

強めの剪定により、安全性は確保されているものの、その他の機能・効用が十分に発揮できていません。



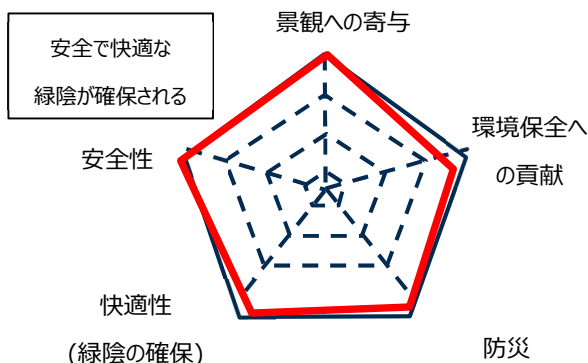
現在の樹形



樹木の剪定手法や剪定頻度、樹木の配置を見直すことで、樹木のもつ機能・効用を最大限に発揮させます。



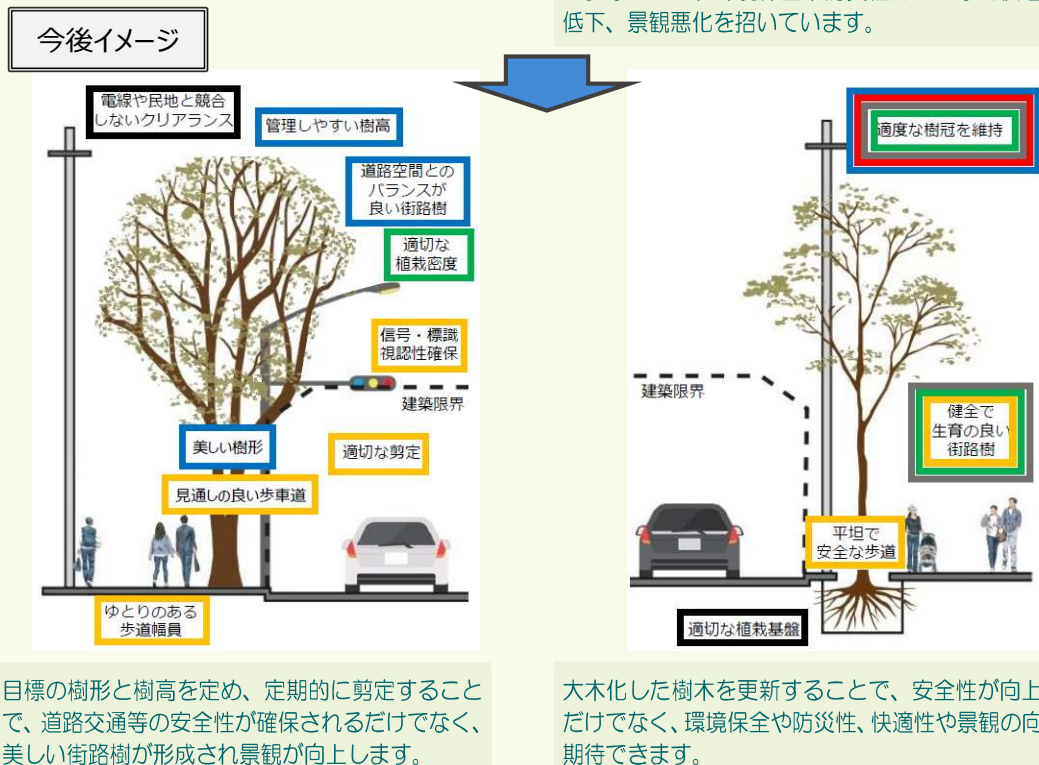
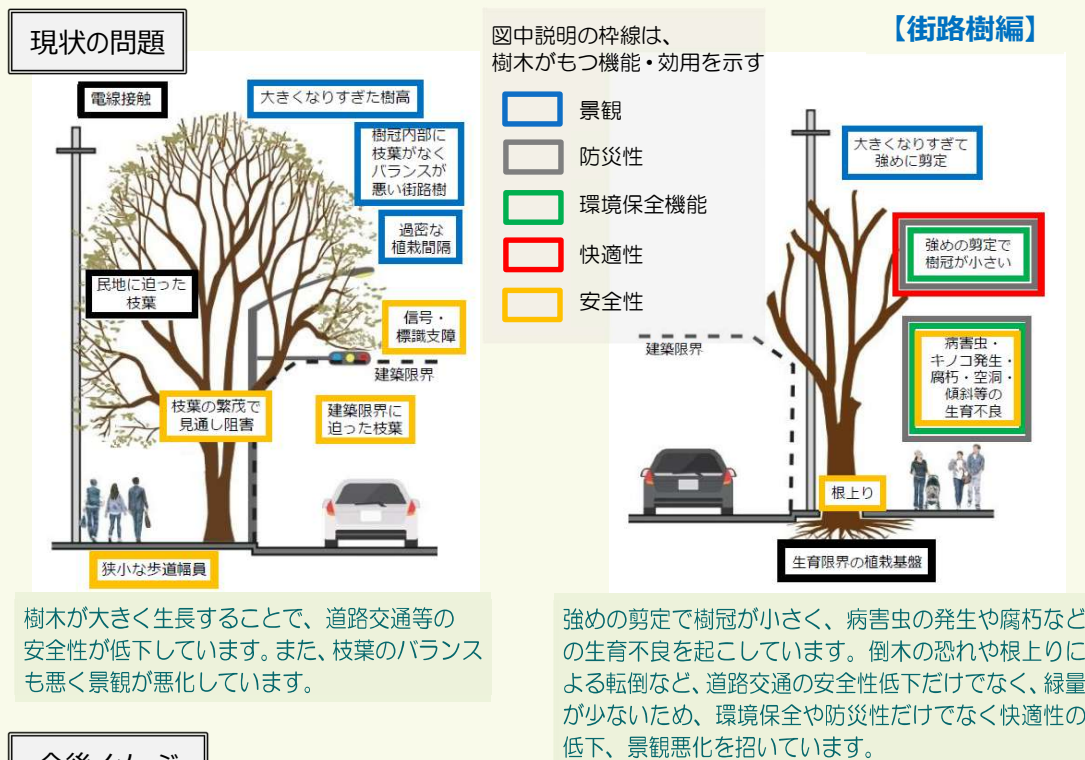
目標とすべき樹形



👉 《解説①》 「安全性を確保しつつ、樹木のもつ機能・効用を最大限に発揮」とは？

ここでは、維持管理目標における「安全性を確保しつつ、樹木のもつ機能・効用を最大限に発揮」するとは、具体的にどのようなイメージかを詳しく解説します。

まずは、街路樹を対象に現状の具体的な問題を上げ、今後、本戦略に基づく取組後にこれらの問題がどのように解決されるかを示し、それらによってどのような機能・効用が向上するかを下図のとおり示します。



👉《解説①》「安全性を確保しつつ、樹木のもつ機能・効用を最大限に発揮」とは？

維持管理目標における「安全性を確保しつつ、樹木のもつ機能・効用を最大限に発揮」するとは、具体的にどのようなイメージかを解説します。

次に、公園樹を対象に具体的にどのようなイメージかを解説します。

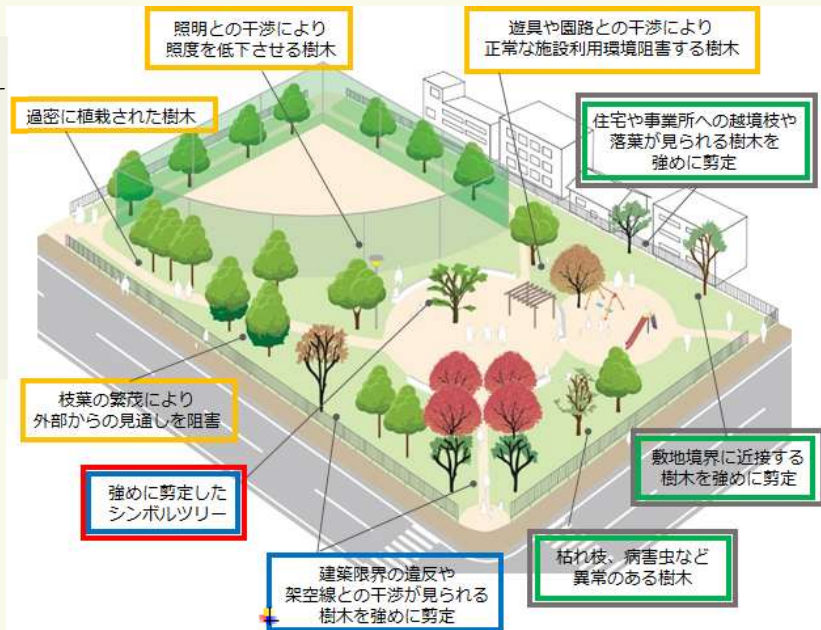
現状の問題

【公園樹編】

例えば、取組前の黄色のみで囲われた部分は、強めの剪定で樹冠を小さくし、安全性は確保されていますが、景観や快適性などの機能は十分に発揮されていません。

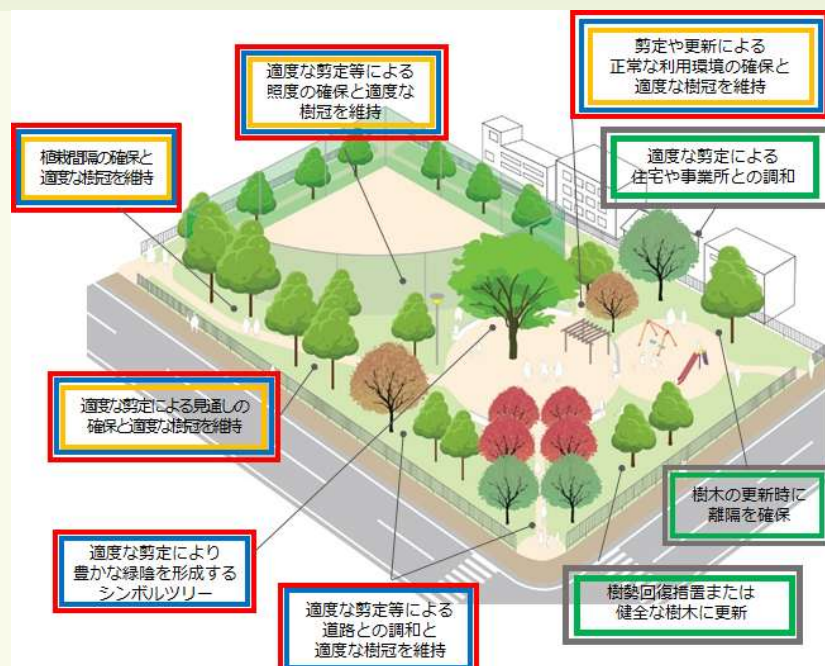
図中説明の枠線は、
樹木がもつ機能・効用を示す

- 景観
- 防災性
- 環境保全機能
- 快適性
- 安全性



今後イメージ

取組後は、適切な剪定方法や頻度で管理を行うことで、適度な樹冠を維持し、環境保全や防災性だけでなく、快適性や景観などの機能・効用の向上が期待できます。



《解説②》「道路、公園など植栽環境に応じた健全で活力ある樹木を保全育成」とは？

維持管理目標における「道路、公園など植栽環境に応じた健全で活力ある樹木を保全育成」とするとは、具体的にどのようなイメージかを解説します。

■植栽環境に応じた適正な樹木の配置や樹種の見直しについて

【街路樹編】

将来めざす樹木の大きさ（目標樹形・樹高）を考慮して、空間の大きさに適した間隔や位置で樹木を植栽し、樹種を選定します。これにより、自然樹形に近い形で樹木の大きさをコントロールし、無理のない持続的な管理が可能となります。

空間にゆとりのある広い場所でのケース

空間に適していない大きさの樹木を植栽



空間にゆとりがあるにも関わらず、樹木がもつ機能・効用を十分に活かしきれていない

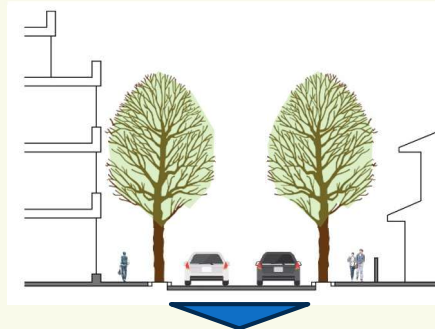
空間に適した大きさになる樹木を植栽



上記のような問題が、一定解消される

空間にゆとりのない狭い場所でのケース

空間に適していない大きさの樹木を植栽



将来、根上りや視距阻害などの問題が発生する可能性が高く、丁寧な剪定が必要となり、維持管理費も増える

空間に適した大きさになる樹木を植栽



上記のような問題が、一定解消される

👉《解説②》「道路、公園など植栽環境に応じた健全で活力ある樹木を保全育成」とは？

維持管理目標における「道路、公園など植栽環境に応じた健全で活力ある樹木を保全育成」とするとは、具体的にどのようなイメージかを解説します。

■植栽環境に応じた適正な剪定方法や剪定頻度の見直しについて

【街路樹編】

将来めざす樹木の大きさ（目標樹形・樹高）を考慮して、樹木にできる限り負担をかけないように適切な頻度で剪定し、空間に適した大きさに維持します。

これにより、本来の自然樹形に近い形で樹木の大きさをコントロールし、樹木のもつ機能・効用を最大限に発揮することができます。

空間にゆとりのある広い場所でのケース



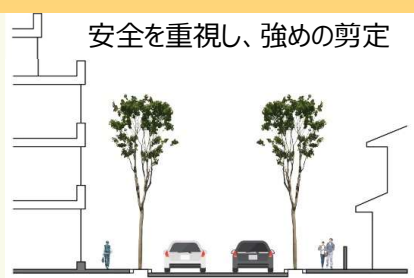
空間にゆとりがあるにも関わらず、樹木がもつ機能・効用を十分に活かしきれていない

樹木に負担のかからないよう適切な剪定頻度で空間に適した大きさに維持する



上記のような問題が、一定解消される

空間にゆとりのない狭い場所でのケース



強めの剪定により、景観が悪化するだけでなく、樹木にも負担がかかり健全性が低下する

樹木に負担のかからないように、適切な剪定頻度で空間に適した大きさに維持する



上記のような問題が、一定解消される

👉 《解説②》「道路、公園など植栽環境に応じた健全で活力ある樹木を保全育成」とは？

維持管理目標における「道路、公園など植栽環境に応じた健全で活力ある樹木を保全育成」とするとは、具体的にどのようなイメージかを解説します。

■ 植栽環境に応じた適正な樹木の配置や樹種の見直しについて

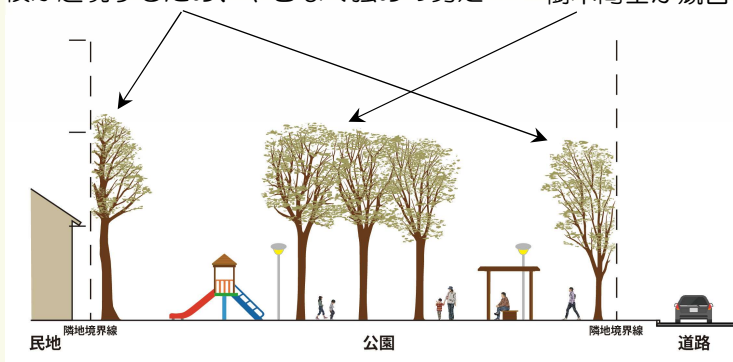
【公園樹編】

将来めざす樹木の大きさ（目標樹形・樹高）を考慮して、空間の大きさに適した間隔や位置で樹木を植栽し、樹種を選定します。

これにより、自然樹形に近い形で樹木の大きさをコントロールし、無理のない持続的な管理が可能となります。

道路や民地に隣接して樹木を配置し、
枝が越境するため、やむなく強めの剪定

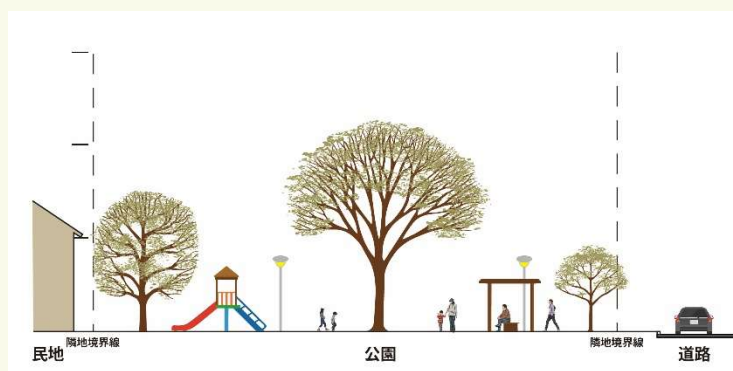
緑量を確保するため密に植栽した結果、
樹木同士が競合している



空間に適した樹種を、
適正な位置に配置できていないため、樹木がもつ
機能・効用を十分に
活かしてきれていない



空間に適した大きさになる樹種を適正な位置に植栽



上記のような問題が、
一定解消される

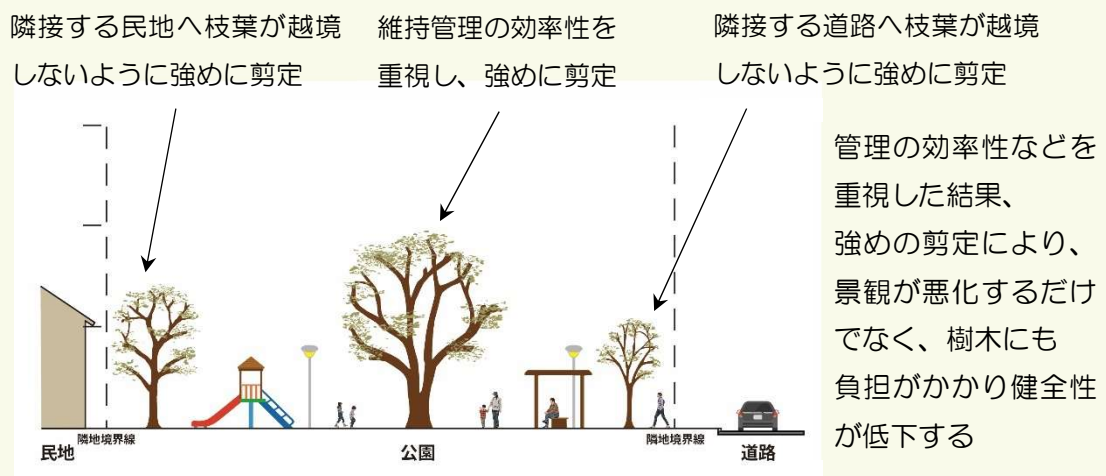
👉《解説②》「道路、公園など植栽環境に応じた健全で活力ある樹木を保全育成」とは？

維持管理目標における「道路、公園など植栽環境に応じた健全で活力ある樹木を保全育成」とするとは、具体的にどのようなイメージかを解説します。

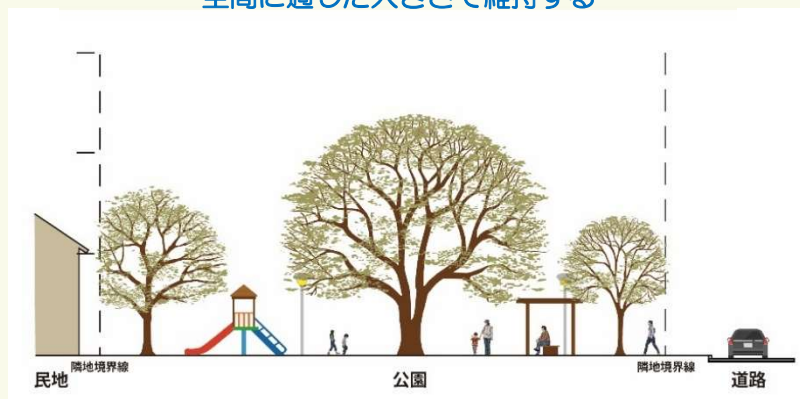
■植栽環境に応じた適正な剪定方法や剪定頻度の見直しについて 【公園樹編】

将来めざす樹木の大きさ（目標樹形・樹高）を考慮して、樹木にできる限り負担をかけないように適切な頻度で剪定し、空間に適した大きさに維持します。

これにより、本来の自然樹形に近い形で樹木の大きさをコントロールし、樹木のもつ機能・効用を最大限に発揮することができます。



樹木に負担のかからないよう適切な剪定頻度で
空間に適した大きさに維持する



（２）街路樹・公園樹の将来像

本市では、街路樹・公園樹の維持管理目標を達成することにより、次のようなまちづくりを進めます。

健全な樹木の育成により安全で快適な暮らしやすいまち

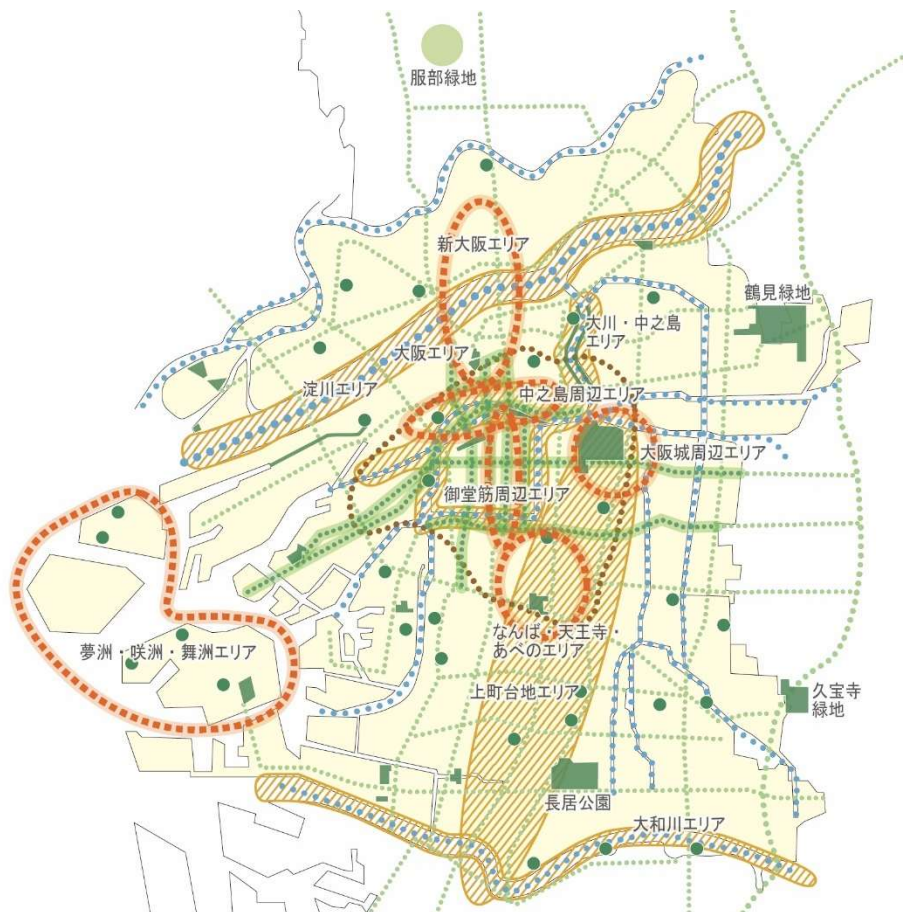
- 見通しがよく安心して利用（通行や滞在）できる道路や公園
- 緑陰のある道路や公園で季節の彩りを感じるなど美しい景観と快適で居心地のよい空間
- 樹木による二酸化炭素吸収量の増加など環境改善効果

身近なみどりが市民に利用され交流を生み 市民ひとりひとりのくらしが豊かになる

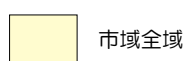
- 緑陰のある快適な公園でイベントなどが多く行われ公園が賑わう
- SNSやHPをきっかけに身近な樹木に関心をもつ人や愛着をもつ人の増加
- みどりのまちづくりにおいて市民協働が活発化

【街路樹・公園樹による市域全域でのまちづくりのイメージ】

大阪市緑の基本計画〈2026〉では、下図のようなみどりの将来像（模式図）をめざしており、同計画において、市域全域及びみどりの都市魅力を創出エリアのそれぞれで、街路樹・公園樹の維持管理にかかる2つのプロジェクトを設定しています。



“みどりの基盤”を構築するエリア



市域全域

つなげていく“みどりのネットワーク”

- みち みどりのネットワーク
- みず みどりのネットワーク
- 鉄道 みどりのネットワーク

“みどりの骨格”を形成するエリア



大川・中之島エリア／上町台地エリア
淀川エリア／大和川エリア

市域全域で、樹木の計画的な保全育成により「樹木の機能・効用」を向上

⇒大阪市緑の基本計画〈2026〉リーディングプロジェクト【(2)ーA】

“みどりの都市魅力”を創出するエリア



新大阪・大阪エリア／なんば・天王寺・あべのエリア
大阪城周辺エリア／中之島周辺エリア
御堂筋周辺エリア／夢洲・咲洲・舞洲エリア

●●●●●● 拠点をつなぐ路線



拠点となる都市公園

みどりの都市魅力を創出するエリアで、「美しい樹形」や「心地よい緑陰」を形成し景観や快適性を向上

⇒大阪市緑の基本計画〈2026〉リーディングプロジェクト【(1)ーA】